

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合に要する経費(周辺整備等)	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	1	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくれます	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	小高 仁志			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合による周辺整備基本計画等策定事業において、構成市として、地域住民との合意に基づいた計画を策定する。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合による周辺整備基本計画等策定事業において、構成市として、地域住民との合意に基づいた計画を策定する。
②①に基づく取組み結果	経緯等を整理し、柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合に必要な資料の提供を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合廃棄物処理施設の周辺地域 ②柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合	意図(対象をどうするのか)	①余熱利用還元施設管理運営効率化、 ②廃棄物処理施設周辺地域の環境整備。
②事務事業の概要	廃棄物処理施設周辺の住民に対する環境整備を目的として、還元施設の維持管理や周辺環境の改善等に必要な経費の負担を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	平成25年4月に、さわやか環境緑地・ふれあい散歩道が開設され、一層の地域活性化が図られた。今後、地域住民及び構成市との合意に基づいた環境衛生組合による周辺整備基本計画による整備を行っていく。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合による「さわやかプラザ軽井沢」の建設費償還金、維持管理経費及び施設南側斜面緑地の保全や植栽管理等に負担金を支出した。					
②成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	算定根拠
	i	余熱利用還元移設利用者数	315,753	324,207	335,814	人 業務取得
	ii	資源化率	20.9	20.9		% 業務取得
	iii	最終処分率	8.8	8.4		% 業務取得
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳		平成27年度予算	
事業費(千円)	141,608	161,645	金額(千円)	内容	134,103	
	国支出金(千円)		5,231	還元施設建設費償還金		
	県支出金(千円)		1,824	緩衝緑地購入費償還金		
	市債その他(千円)		154,590	周辺整備費		
	一般財源(千円)	141,608	161,645		134,103	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	周辺整備計画については、地域住民及び構成市との調整を図りながら見直しを行う必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	運営の効率化について、たえず検証していくため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	平成26年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H25からの繰越	
		H25⇒26繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
平成27年度への繰越額(単位:千円)						

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	ごみ減量業務に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	2	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくれます	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	小高 仁志			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	有価物回収量を増やすため、アンケートを実施し回収量の増加対策の参考資料とする。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	生ごみ処理容器等購入補助事業の普及促進を図るためチラシを作成し自治会を通じて全戸配布を行う。
②①に基づく取組み結果	意識調査の回収、取りまとめ及び分析を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民	意図(対象をどうするのか)	廃棄物の減量をめざし、循環型社会の構築を図る。
②事務事業の概要	有価物回収運動奨励金や買い物袋の持参推進運動協議会の負担金、生ごみ処理容器等購入費補助金の支払いを行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	有価物回収・買い物袋持参推進運動及び生ごみ処理機の補助事業について、全体的に減少傾向にあるが、循環型社会の構築に向けて今後も市民の意識高揚を図っていく必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	市内小学校9校のPTA(出す側)と有価物資源組合(回収側)による有価物の集団回収を行い、市民レベルの存続拡大を図るため、両者に対して品目、回収量別に応じて奨励金を交付した。また、生ごみ処理容器等の購入者に、購入費用の一部について補助金を交付した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	有価物回収量	1,250	1,236	1,172	kg	業務取得
	ii	買い物袋の持参運動交換件数	11,111	10,698	11,527	件	業務取得
	iii	生ごみ処理容器補助件数	26	35	24	件	業務取得
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳			平成27年度予算	
事業費(千円)	14,860	14,138	金額(千円)	内容		15,436	
				13,252	有価物回収運動奨励金	14,203	
				117	生ごみ処理容器助成金	432	
				769	買い物袋持参推進運動負担金	801	
	14,860	14,138				15,436	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	有価物の回収量、買い物袋の交換件数及び生ごみ処理容器等の補助件数について、全体的に減少傾向にある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市民に直接働きかけることでごみの減量化につながる施策であるため、今後もPR活動等を継続する必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	平成26年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H25からの繰越	
		H25⇒26繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由						
	平成27年度への繰越額(単位:千円)					

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合に要する経費(ごみ処理等)	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	2	
政策	21人と自然にやさしい地域社会をつくれます	担当課室	クリーン推進課			
施策	212循環型社会の構築	担当課室長	小高 仁志			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	クリーンセンターしらさぎ建設にあたり、旧沼南町と締結した協定書に基づき、しらさぎに隣接する鎌ヶ谷市域の用地の取得準備を進める。また、購入主体の環境衛生組合に対する負担金を平成27年度予算に計上する。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	しらさぎの建設にあたり、旧沼南町と締結した協定書に基づき、鎌ヶ谷市域の用地を取得するための準備を進める。
②①に基づく取組み結果	用地取得については、登記手続きの時期の遅れにより平成27年度予算計上を見送った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①一般廃棄物(ごみ)を排出する市民等②柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合	意図(対象をどうするのか)	①「資源になるもの」等の再資源化による最終処分量の減少を図る。 ②ごみの適正処理を図る。
②事務事業の概要	構成団体の地区内(柏市沼南地区・鎌ヶ谷市全域)で排出されたごみを適正処理するために建設された施設の建設償還金及び施設運転管理等の経費を負担する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	ごみ焼却施設の老朽化による延命化対策が必要となる。最終処分場確保の逼迫及び資源の有効活用のため循環型社会形成の取組みが求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	ごみ処理費用及び処理施設建設費償還金に係る負担金を支出した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	再資源化量	6,579	6,676		t	業務取得
	ii	最終処分量	2,809	2,691		t	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳			平成27年度予算	
事業費(千円)	1,246,562	1,178,504	金額(千円)		内容	1,108,452	
			576,104		ごみ処理費負担金		
			585,597		共同化処理費負担金		
			16,803		ごみ処理施設償還金		
	1,246,562	1,178,504				1,108,452	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	今後、ごみ焼却施設の老朽化による延命化対策が必要となる。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	不燃ごみ処理方法及び資源化処理方法についての検討が必要となる。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	平成26年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H25からの繰越	
		H25⇒26繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由	平成27年度への繰越額(単位:千円)					

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	クリーンセンターしらさぎダイオキシン類対策事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	2	〇
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	225環境衛生の充実	担当課室長	小高 仁志			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	平成26年度から実施	③平成27年度に取り組む改革・改善内容	クリーンセンターしらさぎの通常運転に支障がないように対策工事を完成させる。
②①に基づく取組み結果			

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合	意図(対象をどうするのか)	焼却により発生するダイオキシン類を抑制する。
②事務事業の概要	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合負担金におけるダイオキシン類対策事業の負担金を支払う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	焼却により発生するダイオキシン類を、地元との協定で定めた自主規制値 0.1ng-TEQ/m ³ N以下に抑制することが求められている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合に負担金を支出した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	ダイオキシン類排出濃度	0.1以下	0.1以下	0.1以下	ng-TEQ/m ³ N	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳		平成27年度予算		
事業費(千円)	0	76,889	金額(千円)	内容	55,162		
国支出金(千円)			76,889	負担金			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)		76,889			55,162		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	今後、ごみ焼却施設の老朽化による延命化対策が必要となる。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	通常運転に支障がないように対策工事を進める必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	負担金	平成26年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	負担金	76,889	76,889	当初	76,889	76,889	H25からの繰越	
				H25⇒26繰越			現年分	76,889
③達成状況	完了			補正				
④未完了・非着手の理由				流用・充当				
		平成27年度への繰越額(単位:千円)						

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	し尿処理事務に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	3	
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	225環境衛生の充実	担当課室長	小高 仁志			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	合併浄化槽への転換を促進するため、補助制度の周知PRを図る。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	合併浄化槽への転換を促進するため、補助制度の見直し及び周知PRを図る。
②①に基づく取組み結果	補助対象地域の単独浄化槽使用者及び汲取り使用者にPR文書を郵送し、前年度より転換基数が増加した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①汲取り便槽を使用している市民等、②下水道法事業計画認可区域を除く市域に合併浄化槽を設置しようとする者	意図(対象をどうするのか)	①し尿による水質汚濁の防止及び生活環境補の保全、②家庭から出る生活雑排水の水質汚濁物質の軽減
②事務事業の概要	し尿収集運搬及びし尿処理手数料徴収を行う。また水質汚濁を防止するため合併浄化槽の設置を補助する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	長期的には、公共下水道の整備により汲取り世帯及び単独浄化槽世帯の減少が見込まれる。汚水処理の早期概成を目指す国・県の方針により、合併浄化槽の役割が増す可能性がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	合併処理浄化槽を新たに設置するものに、設置費の一部について補助を行った。(18件)							
②成果を表す指標	指標名称			平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	し尿収集・運搬率		100	100	100	%	業務取得
	ii	し尿処理手数料徴収率		96.5	97.6	98	%	業務取得
	iii	補助金利用設置合併浄化槽基数		17	11	18	基	業務取得
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳			平成27年度予算		
事業費(千円)	87,569	91,909	金額(千円)	内容		94,035		
国支出金(千円)	2,500	2,216	10,794		合併浄化槽設置補助	2,778		
県支出金(千円)	2,392	4,058				4,358		
市債その他(千円)	16,878	16,076				15,372		
一般財源(千円)	65,799	69,559				71,527		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	汲取り及び単独浄化槽から合併浄化槽への転換の件数が伸び悩んでいる。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	汲取り及び単独浄化槽からの合併浄化槽への転換件数が目標を下回る状況であるため、補助制度の検証を行う。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	平成26年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H25からの繰越	
		H25⇒26繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由		流用・充当				
		平成27年度への繰越額(単位:千円)				

平成27年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合に要する経費(し尿処理等)	会計	款	項	目	多額経費
		一般	4	2	3	
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	クリーン推進課			
施策	225環境衛生の充実	担当課室長	小高 仁志			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	脱水汚泥のクリーンセンターしらさぎでの焼却について、地元の理解が得られるよう、柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合に調整を依頼する。	③平成27年度に取り組む改革・改善内容	あじさいの脱水方法の改善及び汚泥の焼却方法等について、検討する。
②①に基づく取り組み結果	柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合において計画が具体化しなかったため、焼却方法等について継続して検討することとなった。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①公共下水道を使用していない者、②柏・白井・鎌ヶ谷環境衛生組合	意図(対象をどうするのか)	し尿及び浄化槽汚泥の適正処理
②事務事業の概要	構成団体(柏市沼南地区・白井市・鎌ヶ谷市)の地区内で排出されたし尿、浄化槽汚泥を適正処理するために建設された施設の建設費償還金及び施設維持管理等の経費を負担する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	今後、施設の老朽化による維持管理費の増加が見込まれる。長期的には、公共下水道供用開始区域の拡大により処理量の減少が見込まれるが、災害時の対応において位置づけの再評価が必要とされる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	し尿処理費用及び、処理施設建設費償還金に係る負担金を支出した。						
②成果を表す指標	指標名称		平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	処理率		100	100	100	%	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算(事業費)の主な内訳		平成27年度予算		
事業費(千円)	215,153	171,835	金額(千円)		内容		194,902
国支出金(千円)			38,996		管理費		
県支出金(千円)			132,839		し尿処理費		
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	215,153	171,835					194,902

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	施設の老朽化による維持管理費の増加が見込まれる。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	焼却炉の耐用年数は一般的に15年とされており、今後、必要な修繕等を計画的に実施していく。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成26年度の計画	平成26年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初	0	H25からの繰越	
		H25⇒26繰越			
③達成状況		補正		現年分	
④未完了・非着手の理由	流用・充当				
	平成27年度への繰越額(単位:千円)				